

茶文化の魅力伝承に努めて日タイ両国の交流に貢献 (有限会社 中村茶舗)

会社概要(平成24年11月現在)

- 所在地: 島根県松江市天神町6
- 代表者: 中村 寿男
- 資本金: 720万円
- 売上高: 4億1千万円(平成24年度)
- 従業員数: 32名
- URL: <http://www.nippon-tea.co.jp/>

①事業概要

<日本茶の生産・販売>

有限会社中村茶舗は、創業明治17年、茶処・松江のお茶の老舗。日本各地の生産者から良質な茶葉を厳選し、長年培った電動石臼による伝統製法を用いて自社工場で加工しブレンド。同社独特の味や香りをもつ、高品質で上質な日本茶を全国に提供している。

工場見学で自社の取り組みを広く一般に紹介し、“普段着感覚”の抹茶の楽しみ方を紹介する「抹茶体験」の機会を多くの人に提供するなど、地元松江の伝統文化の普及活動にも力を注いでいる。

②海外展開概要

<タイへの輸出>

「日本人は古いものに関心を持たなくなった」と憂い、「日本が誇る伝統文化を大切にしてくれる国があれば、その魅力を存分に伝えたい」と思い、調査と思索を重ねた末、目を向けたのは、親日国で日本の皇室とも関係が深いタイ。「まずはタイ在住の日本人に向けて日本茶を販売する」というシナリオを描いたが、頓挫。しかし縁あって「日本の抹茶を我が社の新たな商材の一つに」と願う現地の女性経営者タシニー社長と出会い、共同ブランド「CHAHO(茶舗)」を設立。バンコク市内の大型ショッピングセンターにテナントショップをオープンさせた。中村社長は技術提供に注力し、タシニー社長は日本人の発想とは異なる商品開発を次々と実現。日泰融合のCHAHOブランド商品は現地で高い評価を受けている。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

抹茶は温度や湿度の影響を受けやすく、年間通して高温多湿のタイでは変色を起こしやすいが、「それが日本文化の繊細さ」と、抹茶の個性、味の本質を粘り強く説き続け、ついにタシニー社長が「扱いの難しさから他社では手が出せない商材を入手するチャンス」と発想を転換、共同ブランド立ち上げに繋がった。

また、日本文化の普及活動として、バンコク市民の前でお茶のデモンストレーションを行い、熟成茶を茶壺から出す口切りの儀式などを披露、抹茶体験の場も提供した。一連の活動の功績が認められ、中村社長は平成21年3月、タイ王室の招きで国際展示会「コーヒー&ティーフェスティバル2009」に参加、タイ王室のソムサワリ王妃らが見守る中、オープニングセレモニーでお手前を披露する栄誉に浴した。

④今後の事業展開について

中村社長がタイで見せた日本文化は現地の人たちにとって新しい刺激であり、現地の人たちによる抹茶の新たな活用提案は、中村社長にとっても新しい視点だった。「タイ人の目で見た抹茶文化を日本へ逆輸入してみたい。」そんなプランも頭に浮かんでいる。

バンコク市内の
CHAHO▲



▲ バンコク市内での口切のデモンストレーションを披露した中村社長



(平成24年11月現在)

データ出所: 中国経済産業局